

<7月21日(金)-7月22日(土)第4戦レポート>

2017 D1 GRAND PRIX SERIES Rd.4 OSAKA DRIFT

コースコンディション：ドライ

PACIFIC RACING TEAM DUNLOP 村山悌啓選手(車両：NAC ガールズ&パンツァーS14 激 IK)

最終成績：単走決勝 20位/総合 20位

<レポート本文>

梅雨が明けて最初の週末、猛暑のなかでD1GP第4戦が行われた。開催場所は大阪市此花区の人工島・舞洲スポーツアイランドの特設コースだ。この場所での開催は2年ぶり。通算3度目の開催となるが、これまでストレー後半にゆるいコーナーを設けてからメインのコーナーに進入するレイアウトだった。それが、今回はストレーを真っ直ぐ加速し、そこからテールを振り出して一発でメインのコーナーに飛び込むレイアウトに変更された。スピードをのせて奥まで振り出したほうが概して高得点がとれるが、同時にクラッシュのリスクも高まるタイプのコースだ。

村山選手は、今季のエンジンがいまひとつ不調なことから、エンジンを去年と同じ東名パワードの2.2L仕様にもどし、GTX3582タービンを組み合わせた600psという出力に合わせてきた。これまで村山選手はこのコースで好成績を残したことがないため、やや苦手意識はあるようだが、この1、2年の村山選手はどのコースに行っても安定して高得点を出せる走りができている。本人も「特設コースでタイヤを食わせるセッティングがわかってきた」と、まずまずの手ごたえだ。

予選本番前の練習走行ではファイナルを変更してギヤ比を調整し、アクセルをより踏めるようにセットを変更し、予選本番に臨んだ。

予選1本目は、メインのコーナーでの角度が浅く、97.09点という微妙な得点にとどまったものの、2本目は振り返り区間である第4セクターで高得点を獲得し、97.67点をマーク。予選突破を果たした。

翌日の単走決勝前、村山選手はより角度をつけたドリフトで点を稼ごうという意図からサスペンションのセッティングを変更。しかし、前夜に降雨があったせいか、コースはあまりコンディションがよくなり、チェック走行では十分な確認ができないまま単走決勝本番に臨むことになった。

1本目、村山選手は振り出しでまずまずの得点をとったものの、旋回区間でドリフトがもどってしまい、大きく減点される。96.45点。このままでは厳しい。1本目の上位8名には入れず、2本目の走行に回ることになった。

その2本目、村山選手は振り出しの鋭さが足りず、メインのコーナーでの角度も足りず、点が伸びない。96.56点。追走トーナメント進出はならないまま敗退となってしまった。

今季はまだ上位進出を果たしていない村山選手だが、次の開催地は得意とするエビスサーキット。確実に実力を発揮してほしいところだ。

<村山選手コメント>

1本目のときは、1セクターは思ったとおりバキッとイケたんで、よかったんですけど、その前にけっこう足とかイジって角度つく仕様にしてたんですけど、練習走行1周もできてなかったんで、そこが、どれくらい早く踏んでいいんだかがぜんぜんわからなかったんで、ぶっつけ本番すぎちゃった感があって失敗しました。ホントはそれを生かして2本目にしようと思ったんだけど、けっきょく迷って、ちょっと抑える方向で考えちゃったんで、考えかたが弱かったかのが敗因かな、と。2本目も抑えないで行っちゃって、ちょっと失敗して点を引かれるくらいのほうがぜんぜん点数はよかったかな、っていうのは思いましたね。そのへんの組み立てミスですね。

クルマも次ぐらいまでには去年と同等くらいのコンディションには持っていけるかな、と思ってるんで、期待してください。